東南アジアを対象とした
人と自然の相互関係に関する文化人類学的研究

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部　国際コミュニケーション学科
講師　　鈴木　遥

研究分野：文化人類学、東南アジア地域研究

概要：私は、人、生物、非生物などの文化的、生態的境界は実はかなり曖昧で、今よりもっと柔軟な機能分担や共生関係が考えられるのではないかというアイデアのもとに、人と自然の相互関係に関する文化人類学的研究を続けています。具体的には、インドネシアを対象に、沿岸域に暮らす人々の生活文化と自然との相互関係について調べています。主な研究方法はフィールドワークで、現地へ赴き、人々と寝食を共にし、その中で人々の生活世界を理解することを目指しています。

■資源利用から考える分解者としての人間

豊かな海と森を有し、多様な文化のもとで大きく社会変化を遂げる東南アジアに魅せられて、フィールドワークに基づく研究を続けてきました。特に、熱帯の気候や生態系と、人々の生活文化との相互関係に関心を持っています。今取り組んでいるのは、人々は熱帯林から得られる木材を利用する際に「腐る」ということをどう認識しているのか、「腐る」ことを組み込んだ文化はどのように成立しているのか、という点です（写真1参照）。熱帯林の保全が地球規模の課題となる中で、資源生産や管理の持続性が問われています。この課題に対し、本研究は、人間の生態的機能に関わる文化や、それを生かした人、生物、非生物などの共生関係に関する議論を深化させ、熱帯林保全の概念そのもの、そしてその中での人間の役割を再考することを目指します。



写真1.
インドネシア沿岸集落での腐朽した木製桟橋を修理する風景
（2014年9月　鈴木撮影）

■日本に暮らす東南アジアルーツの人々への理解、実践的研究

近年、日本に暮らす東南アジアにツールを持つ人々が急増しています。私自身、夫がインドネシア出身者であるということもあって、日々、日本に暮らす東南アジアにルーツを持つ人々との交流を持っています。そして、彼ら/彼女らが日本で生き生きと生活するために、私にできることがあるだろうかと考えています。こうした問題意識から、日本に暮らす東南アジアルーツの人々に関わる研究、特に、相手が置かれている状況に積極的に関わる実践的研究を行うことを目指しています。現時点では健康や医療に関わる状況に関心を持っていますが、学生とともに学ばせていただき、少しでもお手伝いできることなどがあれば積極的に連携させていただきたいと思っています。



写真2.
日本語を学ぶ留学生とゼミ生の交流会の風景
（2025年10月　鈴木撮影）